

福井県？
えちぜん鉄道？
福井鉄道？
相互乗り入れ？
キーボ？



福井県における クルマに頼り過ぎない社会づくり ～地域鉄道の復活から福井国体・新幹線開業に向けた挑戦～



平成30年2月20日(火) 福井県クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議

福井県の概要① ルポール麹町と福井県庁の位置関係



ルポール麹町と福井県庁は

- 車で511km6時間10分
- 鉄道で4時間5分
8:49県庁発→12:54着
- 飛行機で4時間20分
9:07県庁発→13:27着

福井県内のアクセス

福井県内の主な鉄道・バス路線図



【鉄道網6路線】
JR西3・福井鉄道1
えちぜん鉄道2



新型車両、踏切圧雪も課題

福井鉄道とえちぜん鉄道は、今回の大雪で「雪への弱さ」が浮き彫りになった。本格的な積雪となった十二日からダイヤが乱れ、大学入試センター試験（十三、十四日）の受験生にも影響。除雪が追いつかなかっただけでなく、新型車両、踏切の圧雪なども原因の一つになり、「次への課題」も見えてきた。

福鉄福武線は十二日朝から、福井市内を中心に電車が立ち往生し、古い除雪車も脱輪する負の展開だった。複数の止まった電車の収容、踏切でのトラックの立ち往生、全線除雪の決定などで十三日昼すぎから十四日午前まで全線運休をやむなくされた。

センター試験の二日間は朝の電車を動かさず、受験生らを代行バスで搬送。えち鉄もダイヤが乱れ、十三日は計二十八人の試験会場入りが遅れた。福鉄の担当者は「朝方に雪が

大雪で立ち往生した福井鉄道のフクラム＝12日午前9時47分、福井市中央1丁目のフェニックス通りで



運休繰り返した福鉄、えち鉄

強まり、夜通しの除雪効果がなくなっていた。迷惑を掛けて申し訳なかった」と話す。

福鉄運休の要因の一つにあるのが、新型低床車両「フクラム」の導入。車高が低いため積雪を巻き込みやすく、軽量で雪に乗り上げやすいという。従来の腰高の車両を使うと、乗降時にホームとの段差が生じるため「大雪時だからといってフクラム運行をやめる訳にもいかない」という悩みもあった。

一方、えち鉄は十三、十四日に三国芦原線、勝山永平寺線の一部区間で運転を見合わせた。各地にあるレール切り替えの分岐器が雪で埋まり、電熱線融雪を備えていても「人力でないと解消できない降雪量だった」と担当者は話す。

共通した課題として浮かぶのは、踏切の圧雪対策。通過する際に屋根に積んだ雪を落とす車が多く、後続車に踏み固められ、運行の妨げになった。両鉄道合わせて約二百カ所の踏切があり、人力での除雪に長時間を要したという。県交通まちづくり課では「次の大雪に備え、道路管理者の市町が除雪に協力する仕組みも検討していきたい」と考えている。

両鉄道のダイヤの乱れは十六日も完全に解消されていない。相互乗り入れは先週末から取りやめが続いている。

（尾嶋隆宏）

H30年1月18日
県民福井

交通網の回復加速

福鉄福武線、えち鉄勝山永平寺線



越前武生—田原町間で運転を再開した福井鉄道＝10日午後1時15分ごろ、福井市西木田1丁目(杉本哲大撮影)

中部縦貫道 通行可能に

県内の公共交通機関は10日、陸上自衛隊の除排雪支援もあり、運行区間が大幅に拡大した。福井鉄道福武線は大部分の区間で、えちぜん鉄道勝山永平寺線は福井・永平寺口間で運転を再開。えち鉄三国芦原線は西長田ゆりの里まで運転区間を延長した。中部縦貫自動車道は4日ぶりに全線で通行可能となった。

(取材班)

福鉄とえち鉄では、県の災害派遣要請を受けた陸自が除排雪作業を支援。計544人が9日午後から10日早朝まで活動した。

福鉄福武線は越前武生—田原町間を30分間隔で間引き運転。下りが午後0時25分、7時55分越前武生発、上りが同0時54分、8時24分田原町発で、普通列車のみ運行した。駅前線は10日午後9時半から残雪を撤去する予定で、11日の運転再開を目指す。

えち鉄勝山永平寺線は午後1時55分福井発から再開し、永平寺口まで折り返し運転した。9日に福井—新田塚間で運転を再開していた三国芦原線は、同3時39分福井発から運転区間を西長田ゆりの里まで延長した。

JR北陸線は特急がタイナスターなど5本が運休。普通(金沢—敦賀)は37本が運休

して通常の7割程度の便数だった。越美北線は12日まで全便運休。

福鉄バスは福清線の一部区間で運行再開し、運休路線は▽赤十字病院線▽清原循環線▽浅水循環線―の3路線となった。高速バスはJR福井駅東口バス乗り場の除排雪が完了したため、午後9時50分福井発東京行きのみから運行した。京福バスは10日も駅東口バス乗り場の除排雪が完了したため、完了は11日午前から▽学園線▽運動公

国線▽大野線▽勝山大野線―の4路線で運行を再開する予定。

中部縦貫自動車道の除雪は

中日本高速道路が支援。午後

5時に福井北―松岡インタ

ーチェンジ(IC)、永平寺

参道―上志比IC間の上下

線で通行止めが解除され、全

線で通行可能となった。た

だし、永平寺ICはアクセ

ス道路が除雪中のため閉鎖

されている。完了は11日朝

H30年2月11日
福井新聞

鉄道事業者と地方自治体との除雪協力体制



H30年2月6日



H30年2月7日

鉄道事業者と地方自治体との除雪協力体制

H30年2月8日



H30年2月8日

鉄道事業者と地方自治体との除雪協力体制

H30年2月8日



H30年2月9日



県内バス路線 除雪進む

京福 21日までに8割超復旧

記録的な大雪に見舞われた福井県は18日、福井市内を中心にバス路線の拡幅除雪が進んだことから、京福バスは19

日から県内の全71系統中47系統（約66%）が運行すると発表した。道路状況に応じた減便やルート変更があり運行率は51%。他の多くの路線も再開のめどがつき、21日までに61系統（約86%）で運行する見通しとなった。福鉄バスは19日から10路線中9路線で、

福井市内を走るコミュニティバス「すまいる」は全4ルートで運行となる。

【23面に関連記事】

大雪の影響で、京福バスの運行は18日段階では30系統にとどまっていた。福井市や県

は17、18日にバス路線の集中的な拡幅除雪を実施。京福バスの社員らはバス停付近の除雪作業に取り組んだ。

その結果、大型バス同士がすれ違いできるようになった。

福鉄バスは赤十字病院線を除き運行する。すまいるバスは19日から北、西ルートを再開。越前市の市民バスは17日から全線で運行しており、大

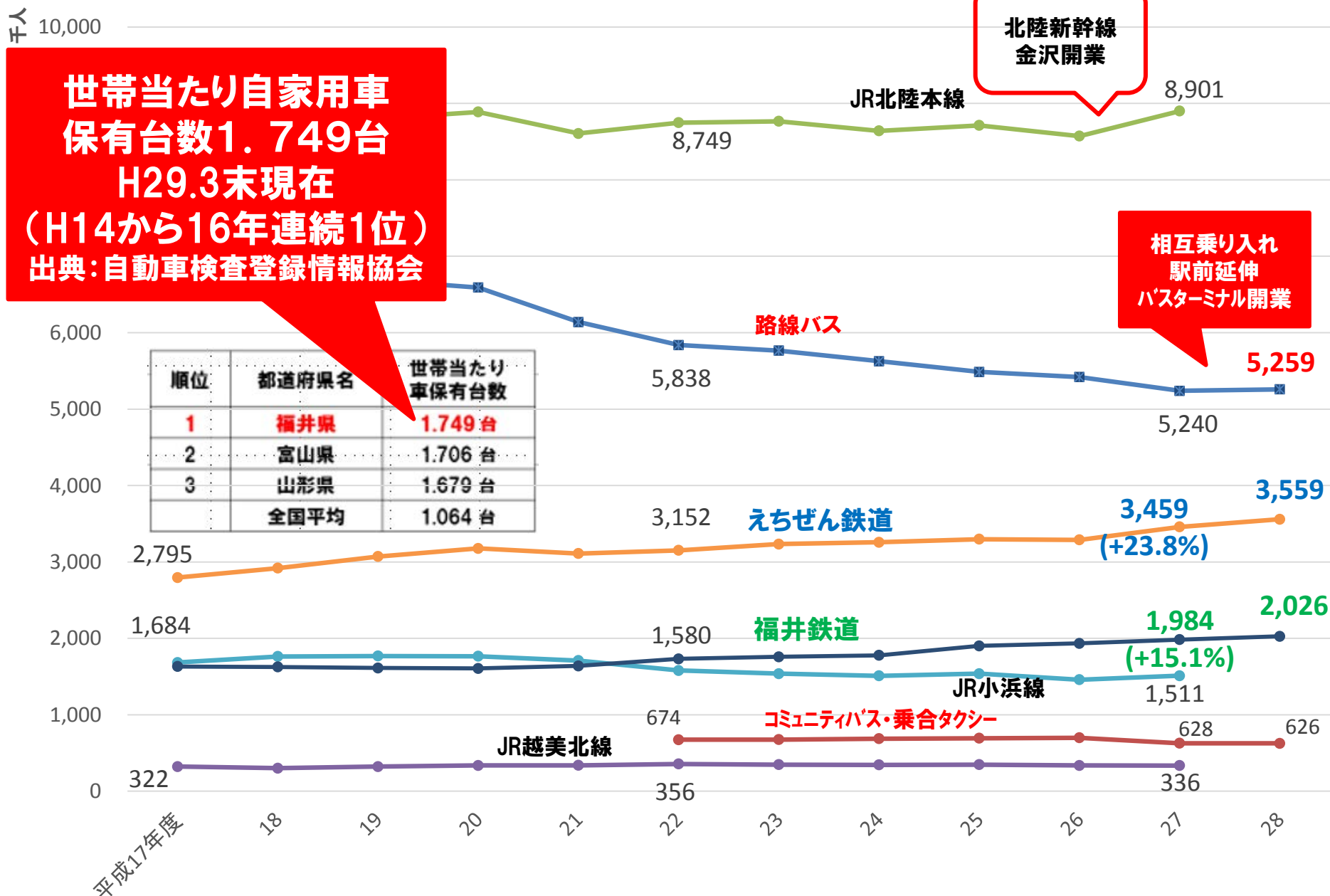
野市のまちなか循環バスと永平寺町のコミュニティバスは19日から通常通り運行する。坂井市や鯖江市、越前町のコミュニティバスも早期の全面復旧を目指している。

鉄道では、えちぜん鉄道三国芦原線と福井鉄道福武線の相互乗り入れ運行が、19日から再開する。

一方、福井市の足羽川九十九橋南詰下流で排雪場の開設と運営に当たっていた陸上自衛隊は、県から受けた任務が完了したため18日夕に撤収した。排雪場の運営は19日から市が引き継ぐ。（取材班）

H30年2月19日
福井新聞

福井県内のバス・鉄道の利用状況



両地域鉄道の通勤定期利用者数が増加

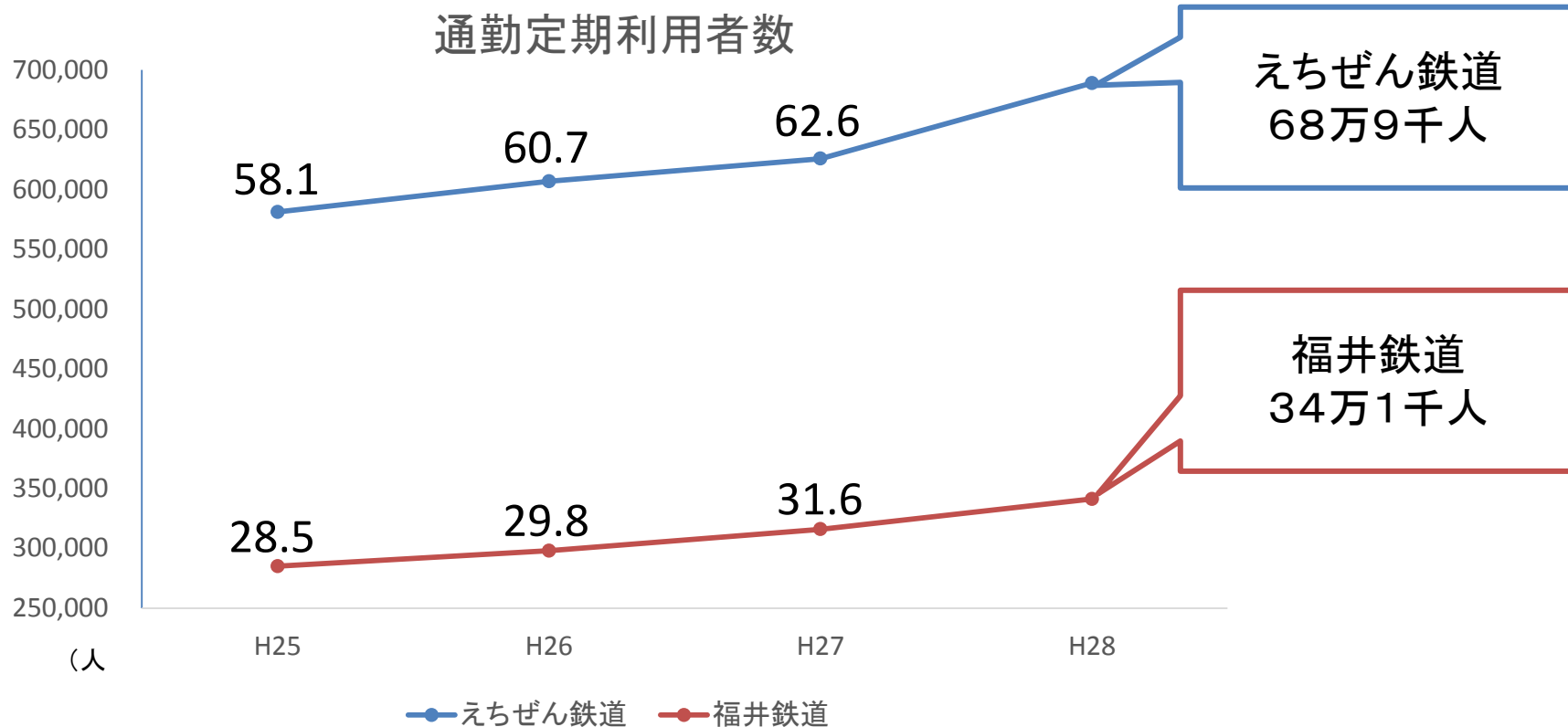
◇平成28年度の福井鉄道・えちぜん鉄道(全線)の利用者数

福井鉄道 約202.6万人 (前年度比 2.1%増(+4.2万人))

・通勤定期 8.0%増(+2.5万人) ・定期外 2.8%増(+2.7万人)

えちぜん鉄道 約355.9万人 (前年度比 2.9%増(+9.9万人))

・通勤定期 10.1%増(+6.3万人) ・定期外 3.6%増(+6.0万人)



乗り入れするふたつの事業者の概要

日本一の車社会福井で地域住民・自治体・事業者が協働し、両地域鉄道の「再生」

えちぜん鉄道株式会社

・H12年12月、H13年6月 二度の正面衝突事故により、バス代行(2年5か月)

・H14年9月 真に必要な鉄道として、えちぜん鉄道株式会社発足

・H15年10月 全線開通

→ 地域住民・自治体・事業者が一体となって、利用者増を実現し、
地域鉄道として「よみがえり」を果たす

(利用者数 H16年度 2,424千人 → H28年度 3,559千人)

～えち鉄のこれまでの取組～

- ・サポーターズクラブの発足
- ・アテンダントの導入
- ・きょうりゅう電車の運行
- ・新駅設置(3か所)



きょうりゅう電車



○営業路線延長 53.0km
(三国芦原線) 25.2km〔鉄道区間〕
(勝山永平寺線) 27.8km〔鉄道区間〕

○使用車両 大型車両 21編成
低床車両 2編成

○愛称 『えち鉄』



7000形

↓ 福井鉄道沿線住民はえちぜん鉄道再生を見ていたため、そのバトンを引き継いで、再生へ ↓

福井鉄道株式会社

・H18年度 赤字により自主的経営再建を断念

自治体に支援要請

・H21年2月 鉄道事業再構築実施計画策定(国交大臣認定第一号)

→ 地域住民、自治体、事業者が一体となって、再建を行っている

(利用者数 H20年度 1,606千人 → H28年度 2,026千人)

～福鉄のこれまでの取組～

- ・新駅の設置(3か所)
- ・高齢者割引制度など企画切符の導入
- ・ドイツ製車両『レトラム(F10形)』の導入
- ・低床型LRV車両『FUKURAM(F1000形)』の導入



F10形

○営業路線延長 21.5km
(福武線) 鉄道区間 18.1km
軌道区間 3.4km

○使用車両 大型車両 3編成
低床車両 15編成

○愛称 『福鉄』



770形

電車同士が正面衝突

運転士死亡25人けが

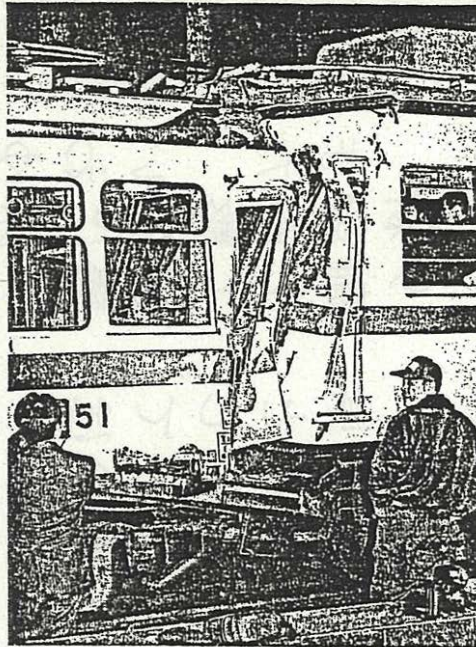
福井の
京福電鉄
ブレーキ故障か

十七日午後一時ころ、福井縣坂田町志保の京浜鐵道越前本郷駅前、志保駅前で、福井縣警行會下り電車^一川田幸次郎車士^二の^三、支線の水平車から進入してきた上り電車^四と福井木忠次車士^五の^六が衝突の路線と正面衝突した。幸次郎車士は全身を強く打つ間もなく死に、下り電車に飛つた川田車士の遺體がさんざんが車体となるなど及ぶの惨状、死者計二十五人が直轄府を負つた。

2017年12月27日

電車線 本線進入し1ヶ口暴走

上達失勢死傷甚望て京師に
故相張東樹の東吉市駅で授
職しており、同駅が終端た
いる。



正面衝突した京福電鉄の車両を調べる捜査員＝17日午後4時50分、福井県松岡町で

[illegible]

H12年12月18日
朝日新聞

わずか半年 惨劇再び



救急車に運ばれる京福電車事故の負傷者＝24日午後6時24分、豊山市鷹谷町で

『存続運動に水』
『もう乗れない』

不信の声

[illegible]

京福電車事故

13.6.25 果民福研

飛び散るガラス片

運輸士 足挟まれ『助けて』

「是は予と申があり、何人が夫に倒れた、車内より飛び降り、頭を血流してゐない。」
二十四、勝山町に近き京電車事故の現場には、救急車が三台、事故現場より三町ばかりの市街に降りけるが、騒動と次第に止まれ、電車の後には、ガラスなどが散らばり、事故の現場のすまじと瓦礫の間に、つたてた。昨年十月、同じく同じ事故が、わが半分の市街の町に、電車、道路から落ちて、死んでゐた。

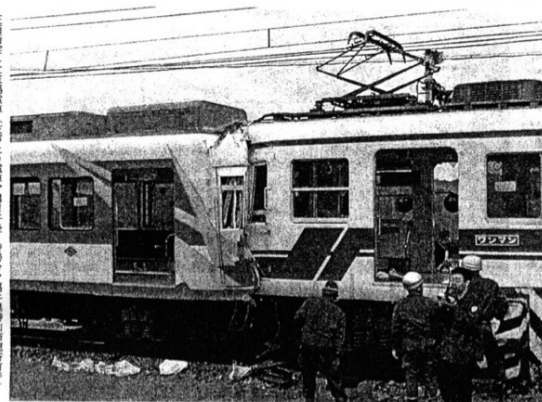
乘客

[illegible]

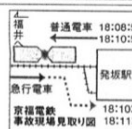
日13年6月25日

京福電車また正面衝突

乗客ら25人重軽傷
昨年12月も「上り」信号見落とす
同様事故

[illegible]

3線すべて
運行停止に



と云が、上り普通が坂駅を過ぎて衝突して、同着は下川床運転士下り急行を待つてすれ違いますが、そのまま坂駅出発したとみており、乗

も「発車駅に止まった証言。同運転士が信号落しなどの過失があれとみて、詳しく調べる。現場は水田地帯で豊は良く、勝山駅から登にかけての線路はかならず配で、現場付近は平たんになっている。

車停止装置（ATS）
上り普通電車は一九
年に製造され、下り急
車は五八年製造だった
下川床運転士は昨年
に入社し、十一月に運
許を取得し、一、二か

[illegible]

乗り入れするふたつの事業者の概要

日本一の車社会福井で地域住民・自治体・事業者が協働し、両地域鉄道の「再生」

えちぜん鉄道株式会社

・H12年12月、**H13年6月** 二度の正面衝突事故により、バス代行(2年5か月)

・H14年9月 真に必要な鉄道として、えちぜん鉄道株式会社発足

・**H15年10月** 全線開通

いわゆる
『負の社会実験』

→ 地域住民・自治体・事業者が協働し、
地域鉄道として「よみがえり」を実現し、

(利用者数 H16年度 2,424千人 → H28年度 3,559千人)

～えち鉄のこれまでの取組～

- ・サポーターズクラブの発足
- ・アテンダントの導入
- ・きょうりゅう電車の運行
- ・新駅設置(3か所)



きょうりゅう電車



○営業路線延長 53.0km
(三国芦原線) 25.2km〔鉄道区間〕
(勝山永平寺線) 27.8km〔鉄道区間〕

○使用車両 大型車両 21編成
低床車両 2編成

○愛称 『えち鉄』



7000形

福井鉄道沿線住民はえちぜん鉄道再生を見ていたため、そのバトンを引き継いで、再生へ

福井鉄道株式会社

・H18年度 赤字により自主的経営再建を断念

自治体に支援要請

・H21年2月 鉄道事業再構築実施計画策定(国交大臣認定第一号)

→ 地域住民、自治体、事業者が一体となって、再建を行っている

(利用者数 H20年度 1,606千人 → H28年度 2,026千人)

～福鉄のこれまでの取組～

- ・新駅の設置(3か所)
- ・高齢者割引制度など企画切符の導入
- ・ドイツ製車両『レトラム(F10形)』の導入
- ・低床型LRV車両『FUKURAM(F1000形)』の導入



F10形

○営業路線延長 21.5km
(福武線) 鉄道区間 18.1km
軌道区間 3.4km

○使用車両 大型車両 3編成
低床車両 15編成

○愛称 『福鉄』



770形

平成13年9月県議会から京福越前線存続対策プロジェクトチームへ

○福井県県民生活部総合交通課（H13）

9月議会中の土木部の協力(H13.10.01～10.04)

京福越前線存続対策プロジェクトチーム

（うち5名土木部技術職員・H13.10.16～H14.3.31）

平成13年12月19日 存続について県議会の条件付承認

平成14年1月22日 3セク化について県と沿線市町が合意

平成14年4月1日 新鉄道会社支援室、新鉄道会社準備室 設置

○福井県県民生活部総合交通課

新鉄道会社支援室 設置 8名

○沿線市町村による新鉄道会社準備室 設置

新鉄道会社準備室 6名 ⇒支援室と同じ部屋で業務スタート

福井県県民生活部総合交通課（H13）

9月議会中の土木部の協力（H13.10.01～10.04）

県民生活部からの依頼を受け土木部技術職員2名協力

→バス専用レーンの可能性の可否の検討

・都市計画課 竹内 成和 （前 道路建設課）

・県建設技術公社 平林 透 （前 道路建設課）

京福越前線存続対策プロジェクトチーム

→土木部技術職員5名の主な検討項目（H13.10.16～H13.12.28）

③LRVを使った新交通システムの是非＝中村・辻（都市計画課）、大谷（電気課）

④バス専用レーンの可能性の可否＝下西（小浜土木）、平林（県建設技術公社）

⑤福井駅の新幹線乗り入れ3階の是非＝中村・辻（都市計画課）、大谷（電気課）

→土木部技術職員2名の主な検討項目（H14.01.04～H14.03.31）

・県負担の投資的経費の予算検討＝大谷（電気課）、平林（県建設技術公社）

福井県県民生活部総合交通課（H13）

9月議会中の土木部の協力（H13.10.01～10.04）

県民生活部からの依頼を受け土木部技術職員2名協力

→**バス専用レーンの可能性の可否の検討**

・都市計画課 竹内 成和 （前 道路建設課）

・県建設技術公社 **平林 透** （前 道路建設課）

京福越前線存続対策プロジェクトチーム

→土木部技術職員5名の主な検討項目（H13.10.16～H13.12.28）

③LRVを使った新交通システムの是非＝中村・辻（都市計画課）、大谷（電気課）

④**バス専用レーンの可能性の可否**＝下西（小浜土木）、**平林**（県建設技術公社）

⑤福井駅の新幹線乗り入れ3階の是非＝中村・辻（都市計画課）、大谷（電気課）

→土木部技術職員2名の主な検討項目（H14.01.04～H14.03.31）

・県負担の投資的経費の予算検討＝大谷（電気課）、**平林**（県建設技術公社）

平成13年11月18日 沿線住民の結束＝存続訴え「駅伝大会」

京福電鉄越前線 「レール外したら復線ない」

存続訴え「駅伝大会」

京福電鉄越前線の存続問題で、勝山市や永平寺、松岡町、上志比村などの沿線住民らは十八日、沿線を歩いて鉄道の存続を訴える「電車存続駅伝大会」を実施し、県がこの問題に結論を出すとしている十二月を前に結束を固めた。福井市内で開いた決起集会には約六百人が参加し、西川一誠副知事ら関係者に存続への思いを伝えた。



京福電鉄志比堺駅に集合し、電車存続をアピールする住民ら

沿線住民600人参加 西川副知事に最終バトン

駅伝大会は、勝山、永平寺、松岡、上志比の四市町村でスタート。松岡町志比堺の京福志比堺駅には「未来に残そうみんなの電車」などと記したのぼりを持った住民ら約四十人が午前八時三十分集合し、途中、人数を増やしながら、福井市内の東藤島駅まで約六キロを歩いた。

午前十一時ごろには、四コースを歩き終えた約六百人が福井市大手の中央公園に集まり、存続決起集会を開催。初めに、駅伝大会発起人代表の和田高枝・県議が「一度レールを外したら復線は絶対にあり得ない。高齢者や学生らの足を守るため力いっぱい存続を訴えよう」と一致団結を求め、沿線住民らも「にぎわう街づくりには鉄道が不可欠」「電車がなくなれば冬の通学には特に不安を感じる」などと存続への思いを述べた。

事とは「鉄道の存続」は責

平成13年11月18日 電車存続駅伝大会を実施
小舟渡駅から東藤島駅まで13駅を徒歩でバトンリレー（住民参加者 600名）

福井県県民生活部総合交通課（H14）

新鉄道会社支援室 8名

室長	東村 新一（現 福井市長）
参事(事務)	森近 悦治（前 県教育長）
参事(技術)	佐々木 英樹
総括主任	豊北 欽一（現 県総合政策部長）
主任	〇〇
企画主査	〇〇
企画主査(技術)	平林 透
主事	伊東 尋志（現 えち鉄専務）

新鉄道会社準備室 6名

荒井彦一 室長 (福井市)【現 えち鉄監査役】

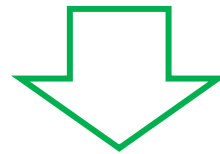
酒井室長補佐 (上志比村)

福田室長補佐 (勝山市)

植田室長補佐 (三国町)

今井室員 (勝山市)

三上室員 (福井市)



県新鉄道会社支援室8名と同じ部屋で業務スタート

乗り入れするふたつの事業者の概要

日本一の車社会福井で地域住民

えちぜん鉄道株式会社

○営業路線延長 53.0km
(三国芦原線) 25.2km〔鉄道区間〕
(勝山永平寺線) 27.8km〔鉄道区間〕

○使用車両 大型車両 21編成
低床車両 2編成

○愛称 『えち鉄』



7000形

H16=2,424千人→H28=3,559千人
12年間で47%増(年間3.9%増)
うち通勤定期379千人→689千人
12年間で82%増(年間6.8%増)

→ 地域住民・自治体・事業者が一体となり、利用者増を実現し、
地域鉄道として「よみがえり」を果す
(利用者数 H16年度 2,424千人 → H28年度 3,559千人)

～えち鉄のこれまでの取組～

- ・サポーターズクラブの発足
- ・アテンダントの導入
- ・きょうりゅう電車の運行
- ・新駅設置(3か所)



再生」

2年5か月)

福井鉄道沿線住民はえちぜん鉄道再

福井鉄道株式会社

○営業路線延長 21.5km
(福武線) 鉄道区間 18.1km
軌道区間 3.4km

○使用車両 大型車両 3編成
低床車両 15編成

○愛称 『福鉄』



770形

H20=1,606千人→H28=2,026千人
8年間で26%増(年間3.3%増)
うち通勤定期211千人→341千人
8年間で62%増(年間7.8%増)

・H21年2月 鉄道事業再構築実施計画(国土交通省認定第一号)

→ 地域住民、自治体、事業者が一体となり、再建を行っている
(利用者数 H20年度 1,606千人 → H28年度 2,026千人)

～福鉄のこれまでの取組～

- ・新駅の設置(3か所)
- ・高齢者割引制度など企画切符の導入
- ・ドイツ製車両『レトラム(F10形)』の導入
- ・低床型LRV車両『FUKURAM(F1000形)』の導入



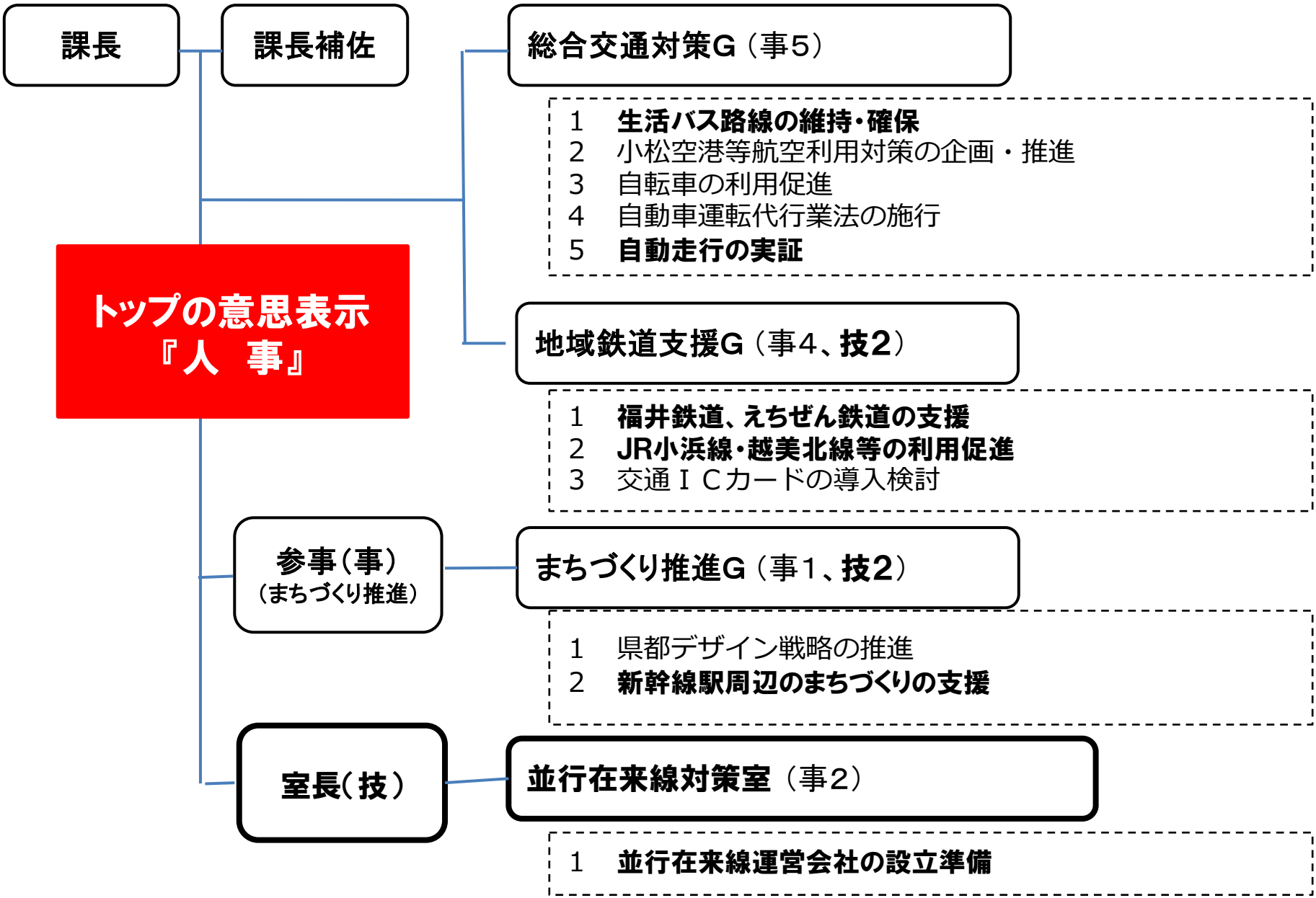
F10形

福井県知事のマニフェストに記載

期	年(期間)	記 述
1	平成15年春 (平成15 ～18年度)	8 福井は列島のまん中 一より近くにより便利に ○地域公共交通機関の活性化と鉄道・バス等の地域交通網の確保 ○えちぜん鉄道の円滑な運航と活性化の推進、福井鉄道福武線との連絡 ・「福井鉄道・福武線」との相互乗り入れを実施
2	平成19年春 (平成19 ～22年度)	8 高速交通時代のにぎわい交流まちづくり ◆モビリティ・マネジメント(交通手段の最適利用)の推進 ○電車・バスの生活利便性の向上 ・えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れの実現と利活用の促進 ○車に頼り過ぎない「カー・セーブ戦略」
3	平成23年春 (平成23 ～26年度)	9 県土に活気の高速交通時代 ◆次の50年の都市改造 ○県都のデザイン戦略 ・えちぜん鉄道の高架化、えちぜん鉄道・福井鉄道の相互乗り入れを実現。 LRT化 ◆電車・バス・自転車に乗りやすい街 ○新しい地域交通のシステム ○「カー・セーブ戦略」のステージ・アップ ・「車に頼り過ぎない県民運動」を促進
4	平成27年春 (平成27 ～30年度)	9 美しい県土、楽しく便利なまちの形成 ◆電車・バス・自転車の利活用拡大 ○福鉄・えち鉄の高機能化 ・福井鉄道の駅前線延伸・短絡線整備、えちぜん鉄道の高架化を進め、 乗継ぎ改善 ○「利活用促進プラン」で電車・バスの利用拡大 ○自転車専用道路の計画的整備・延伸

トップの意思表示
『マニフェスト』

県総合政策部交通まちづくり課 組織図 (平成29年度・課員20名)



福井県知事のマニフェストに記載

期	年(期間)	記 述
1	平成15年春 (平成15 ～18年度)	8 福井は列島のまん中 一より近くにより便利に ○地域公共交通機関の活性化と鉄道・バス等の地域交通網の確保 ○えちぜん鉄道の円滑な運航と活性化の推進、福井鉄道福武線との連絡 ・「福井鉄道・福武線」との相互乗り入れを実施
2	平成19年春 (平成19 ～22年度)	8 高速交通時代のにぎわい交流まちづくり ◆モビリティ・マネジメント(交通手段の最適利用)の推進 ○電車・バスの生活利便性の向上 ・えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れの実現と利活用の促進 ○車に頼り過ぎない「カー・セーブ戦略」
3	平成23年春 (平成23 ～26年度)	9 県土に活気の高速交通時代 ◆次の50年の都市改造 ○県都のデザイン戦略 ・えちぜん鉄道の高架化、えちぜん鉄道・福井鉄道の相互乗り入れを実現。 LRT化 ◆電車・バス・自転車に乗りやすい街 ○新しい地域交通のシステム ○「カー・セーブ戦略」のステージ・アップ ・「車に頼り過ぎない県民運動」を促進
4	平成27年春 (平成27 ～30年度)	9 美しい県土、楽しく便利なまちの形成 ◆電車・バス・自転車の利活用拡大 ○福鉄・えち鉄の高機能化 ・福井鉄道の駅前線延伸・短絡線整備、えちぜん鉄道の高架化を進め、 乗継ぎ改善 ○「利活用促進プラン」で電車・バスの利用拡大 ○自転車専用道路の計画的整備・延伸

パークアンドライド、パークアンドサイクルライドの実施

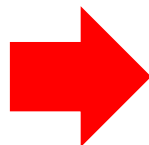
クルマで駅や公共施設の駐車場まで行き、その先は鉄道や自転車を使って通勤する方を対象に、パークアンドライド(P&R)、パークアンドサイクルライド(P&CR)駐車場を設置。

- ・ えちぜん鉄道では20駅916台分、福井鉄道では12駅357台分のP&R駐車場を設置。
- ・ P&CR駐車場は県立図書館、福井市南体育館、県立音楽堂で計30台分設置。

えちぜん鉄道(平成29年4月現在)

平成13年度(京福電鉄時代)

11駅 385台



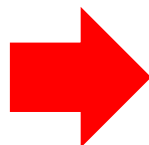
平成29年度(現在)

20駅 916台

福井鉄道(平成29年4月現在)

平成19年度(鉄道事業再構築事業前)

2カ所 125台



平成29年度(現在)

12カ所 357台

えちぜん鉄道の新駅設置

- ・えちぜん鉄道三国芦原線に、新駅「ハツ島駅」、「日華化学前駅」を整備(いずれも平成19年9月開設)。



○ハツ島駅

年間利用者数
H20: 42,013人
↓
H28: 74,730人



○日華化学前駅

年間利用者数
H20: 31,816人
↓
H28: 48,579人

- ・その後の新駅整備



○福井鉄道スポーツ公園駅

平成22年3月開設
年間利用者数
H22: 4,829人
↓
H28: 13,572人



○福井鉄道清明駅

平成23年3月開設
年間利用者数
H23: 11,496人
↓
H28: 30,047人



○福井鉄道泰澄の里駅

平成23年3月開設
年間利用者数
H23: 17,097人
↓
H28: 23,715人



○えちぜん鉄道 まつもと町屋駅

平成27年9月開設
年間利用者数
H28: 31,357人

乗り入れするふたつの事業者の概要

日本一の車社会福井で地域住民

えちぜん鉄道株式会社

○営業路線延長 53.0km
(三国芦原線) 25.2km〔鉄道区間〕
(勝山永平寺線) 27.8km〔鉄道区間〕

○使用車両 大型車両 21編成
低床車両 2編成

○愛称 『えち鉄』



7000形

H16=2,424千人→H28=3,559千人
12年間で47%増(年間3.9%増)
うち通勤定期379千人→689千人
12年間で82%増(年間6.8%増)

→ 地域住民・自治体・事業者が一体となり、利用者増を実現し、
地域鉄道として「よみがえり」を果たす
(利用者数 H16年度 2,424千人 → H28年度 3,559千人)

～えち鉄のこれまでの取組～

- ・サポーターズクラブの発足
- ・アテンダントの導入
- ・きょうりゅう電車の運行
- ・新駅設置(3か所)



H20=1,606千人→H28=2,026千人
8年間で26%増(年間3.3%増)
うち通勤定期211千人→341千人
8年間で62%増(年間7.8%増)

・H21年2月 鉄道事業再構築実施計画(国土交通省認定第一号)

→ 地域住民、自治体、事業者が一体となり、再建を行っている

(利用者数 H20年度 1,606千人 → H28年度 2,026千人)

福井鉄道沿線住民はえちぜん鉄道再

福井鉄道株式会社

○営業路線延長 21.5km
(福武線) 鉄道区間 18.1km
軌道区間 3.4km

○使用車両 大型車両 3編成

自家用車保有台数日本一が支える福井型通勤形態による通勤定期の増

福井市中心部に立地する公共施設、大手企業への通勤を例にとると

【従前】自宅→勤務先:20km=自家用車のみの通勤 = 駐車場代持ち出し

【進化】自宅→勤務先:20km=自家用車+P&R+鉄道=持ち出しなし

福井県知事のマニフェストに記載

期	年(期間)	記 述
1	平成15年春 (平成15 ～18年度)	8 福井は列島のまん中 一より近くにより便利に ○地域公共交通機関の活性化と鉄道・バス等の地域交通網の確保 ○えちぜん鉄道の円滑な運航と活性化の推進、福井鉄道福武線との連絡 ・「福井鉄道・福武線」との相互乗り入れを実施
2	平成19年春 (平成19 ～22年度)	8 高速交通時代のにぎわい交流まちづくり ◆モビリティ・マネジメント(交通手段の最適利用)の推進 ○電車・バスの生活利便性の向上 ・えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れの実現と利活用の促進 ○車に頼り過ぎない「カー・セーブ戦略」
3	平成23年春 (平成23 ～26年度)	9 県土に活気の高速交通時代 ◆次の50年の都市改造 ○県都のデザイン戦略 ・えちぜん鉄道の高架化、えちぜん鉄道・福井鉄道の相互乗り入れを実現。 LRT化 ◆電車・バス・自転車に乗りやすい街 ○新しい地域交通のシステム ○「カー・セーブ戦略」のさらなる推進・アップ ・「車に頼り過ぎない県民運動」を促進
4	平成27年春 (平成27 ～30年度)	9 美しい県土、楽しく便利なまちの形成 ◆電車・バス・自転車の利活用拡大 ○福鉄・えち鉄の高機能化 ・福井鉄道の駅前線延伸・短絡線整備、えちぜん鉄道の高架化を進め、 乗継ぎ改善 ○「利活用促進プラン」で電車・バスの利用拡大 ○自転車専用道路の計画的整備・延伸

福井県クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議

学識経験者、交通事業者4社、県、17市町等37団体から成る団体で、公共交通機関とクルマの適切な使い分けにより、地域にとって大切な公共交通機関を維持していくことを目指して平成23年10月に設立。

- 会長 福井県総合政策部 豊北欽一 部長
- 副会長 福井大学大学院 川本義海 准教授
- 事務局 福井県総合政策部交通まちづくり課



不必要な利用を見直し
クルマは皆でつかう
新時代にふさわしい社会

クルマに頼り過ぎない社会づくり



EST交通環境大賞～オール福井～

H30年1月18日
福井新聞



福鉄水落駅近くのパークアンドライド駐車場。車を止めて電車で通勤するライフスタイルが浸透しつつある＝鯖江市

交通環境大賞を受賞

オール福井 取り組み評価

車に頼り過ぎない県民会議

県や県内の17市町、交通事業者、学識者ら58団体でつくる「県クルマに頼り過ぎない社会」づくり推進県民会議が、環境に優しく将来に持続可能な交通の模範となるEST交通環境大賞の環境大臣賞に選ばれた。1世帯当たりの車の保有台数が全国1位の県内で、地域鉄道や路線バス、自転車利用をハードとソフト両面で促進し、低炭素社会を目指すオール福井の取り組みが高く評価された。

県や交通事業者、学識者らで構成するEST普及推進委員会と、公益財団法人の交通エコロジー・モビリティ財団が17日発表した。EST交通環境大賞は、地域の優れた交通環境対策の事例を顕彰し、功績と努力をたたえるとともに全国に広く紹介すること、普及を図ることを目的として創設された。2009年度に創設された。今回は応募17件の中から大賞2件（国土交通大臣賞、環境大臣賞）、優秀賞1件、奨励賞3件が選ばれ、県民会議は大賞の環境大臣賞に輝いた。

県民会議は11年10月に発足。現在の構成員数は58に上り、それぞれの持ち場でまちづくりを進める。福井県は、福井駅西口広場の供用開始に伴い、近づくに車止めて電車で乗り換えられるパークアンドライド駐車場を整備し、駅までのバスやチケットで乗車し、乗車を促進する毎週金曜日の「セブデー」近距離の自転車利用促進などを実施している。審査委員会は「車の取り組みは全国の自治体の参考になる」と高く評価した。

県民会議事務局長を務める猪嶋宏記県交通まちづくり課長は「オール福井の地道な取り組みが評価されてとてもうれしい」と感想を述べ「県民にとって利用しやすい公共交通は、県外から訪れる観光客にも同じことがいえる。今年の福井国体・全国障害者スポーツ大会や5年後に迫った北陸新幹線開業に向け、誰もが目的地に移動しやすい社会づくりに力を合わせて取り組んでいきたい」としている。

県民会議事務局長を務める猪嶋宏記県交通まちづくり課長は「オール福井の地道な取り組みが評価されてとてもうれしい」と感想を述べ「県民にとって利用しやすい公共交通は、県外から訪れる観光客にも同じことがいえる。今年の福井国体・全国障害者スポーツ大会や5年後に迫った北陸新幹線開業に向け、誰もが目的地に移動しやすい社会づくりに力を合わせて取り組んでいきたい」としている。表彰式は2月20日、東京で行われる。（大谷貴洋）

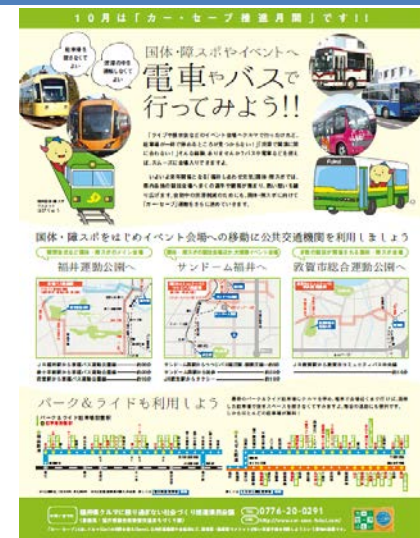
カー・セーブ運動のPR

推進月間や強化月間を中心に県民に発信

- 10月「カー・セーブ推進月間」 3月「公共交通利用促進強化月間」
- ・雑誌へのPRページ掲載、リーフレットの配布によりカー・セーブ運動へ参加を呼びかけ。

イベントへのブース出展、自転車の試乗会

- ・イベントのブース出展、開催
(パネル展示やチラシ・グッズの配布、「バスの乗り方教室」)
- ・「オランダ自転車」や「おもしろ自転車」の試乗会開催、貸出し
(平成29年度のべ試乗人数 約2,800人)
- ・平成19年から毎年「カー・フリーデーふくい」開催(主催:NPO法人「ふくい路面電車とまちづくりの会」)
- ・平成28年度からは新たに、ハピテラスで「ふくい交通フェスタ」を開催。



7人乗りおもしろ自転車
「テイジン エコ丸くん」



カー・フリーデーふくい2017



ふくい交通フェスタ

「自転車利用で3km」運動の推進

「福井バイコロジスト」宣言者の募集、走行会や交流会を実施

- ①3km以内は自転車を積極的に使います
- ②自転車の交通規則、マナーを守ります
- ③クルマに乗っている時は、自転車を邪魔者にしません
- ④自転車利用の輪を広げるための運動に協力します

同意した方を宣言者として登録

- ・定期的に電子メールで情報提供
- ・走行会や交流会を開催



H23(開始時):312人 → H30.1現在 1,566人に！



平成30年度に開催される国体への自転車来場促進

- ・JR福井駅～福井運動公園への自転車ルートマップ作成
- ・路面表示により自転車で来場しやすい環境作り
- ・会期中は、運動公園周辺に臨時の駐輪場を設ける予定



レンタサイクルや「自転車の駅」で自転車を利用しやすく

- ・福井市のコミュニティサイクル「ふくチャリ」(15か所、40台)
- ・JR小浜線のレンタサイクル「WORY」(6駅、50台)
- ・無料で空気入れや簡易工具、トイレを利用できる「自転車の駅」が県内122ヶ所の道の駅、コンビニ、飲食店等に設置。



福井鉄道とえちぜん鉄道の相互乗り入れ事業

◇事業区間 越前武生駅(福井鉄道) ～ 田原町駅(福井鉄道・えちぜん鉄道)
～ 鷺塚針原駅(えちぜん鉄道)

◇事業期間 平成25年度～27年度

◇総事業費 26.3億円

(内容) 低床ホームの整備6駅、線路接続、信号・電気設備の整備、LRTの導入2編成

◇運行開始日 平成28年3月27日



F1000形 (定員155名)

L形 (定員100名)

〔運行時間の短縮〕

越前武生駅 ⇄ 鷺塚針原駅
約80分 → 約60分(約20分短縮)

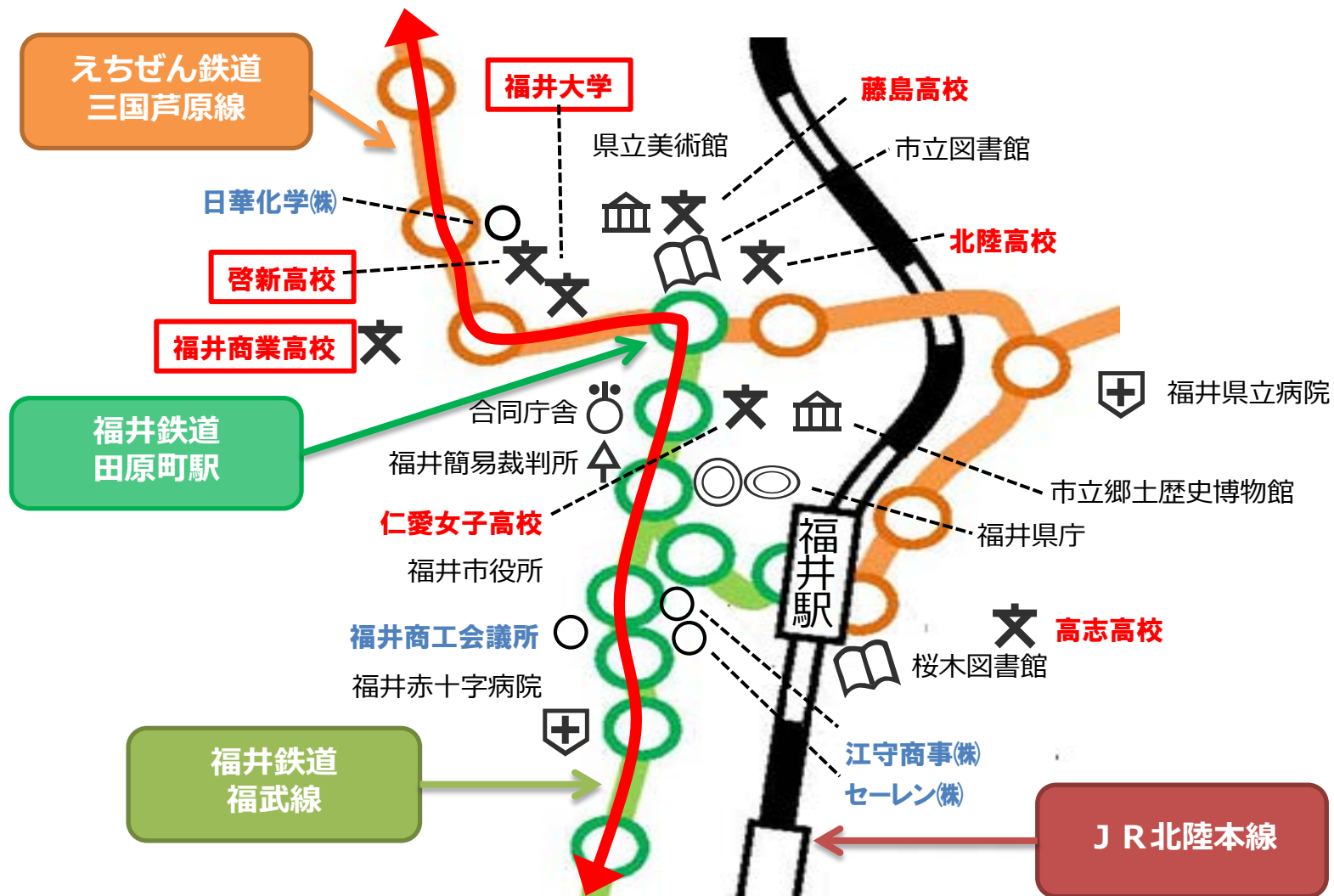
〔運行本数の増便(9時～15時)〕

福井鉄道区間	6本/時	→	8本/時(2便/時増)
えちぜん鉄道区間	4本/時	→	6本/時(2便/時増)

福井鉄道・えちぜん鉄道相互乗り入れ【事業の概要】



福井鉄道・えちぜん鉄道沿線地域(福井市中心部)の状況



・南北の幹線軸沿線には、多くの住宅、学校、公共施設、大手企業が立地

→ LRTによる相互乗り入れ・高頻度運行により、乗車数を拡大

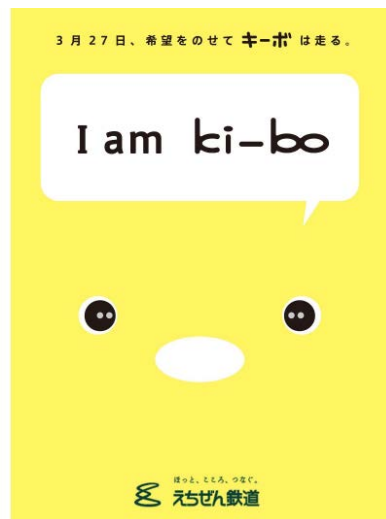
相互乗り入れのための基盤整備

- ・環境省の、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(低炭素化に向けた公共交通利用転換事業)

を活用し、低床車両を2編成導入

※自動車から公共交通への利用転換により、二酸化炭素の排出抑制を図るもの

愛称 「ki-bo」 (キーボ)



えちぜん鉄道株式会社

- ・ L 形 (定員 1 0 0 名、全長 1 8 . 7 m、最高速度 7 0 k m / h
- ・ 事業費 **6 . 3** 億円 (環境省補助 **3 . 1** 億円、県補助 3 . 2 億円)

相互乗り入れのための基盤整備

○低床車両(LRT)からの乗り降りを可能にするため、えちぜん鉄道6駅を整備

事業費：20億円(環境省補助3.3億円、国交省補助4.4億円、県8.2億円、福井市4.1億円)

【合計26.3億円(内訳＝国10.8億円(環境省6.4国交省4.4)、県11.4億円、福井市4.1億円)】

- ・低床ホームの整備
- ・両社線路の接続、信号保安システムの整備
- ・低床車専用線(相直便の折返し線)の整備



田原町駅
(キーボが停車している線が
相互乗り入れ専用線)



福大前西福井駅
(奥が高床、手前が低床ホーム)



日華化学前駅
(奥が高床、手前が低床ホーム)



ハツ島駅
(奥が低床、手前が高床ホーム)



新田塚駅
(両側に低床ホーム)



鷺塚針原駅
(相直便の折り返し線を整備)

乗り換え利便性の向上（福井駅西口での各種交通の結節）



- ・ 福井鉄道「福井駅前」電停を移設(143m)し、西口広場に移転。相互乗り入れと同時に運用開始



- ・ バスターミナルを中央大通りから西口広場に移転

東口:えちぜん鉄道「福井駅」

公共交通の接続の強化(路線バス)

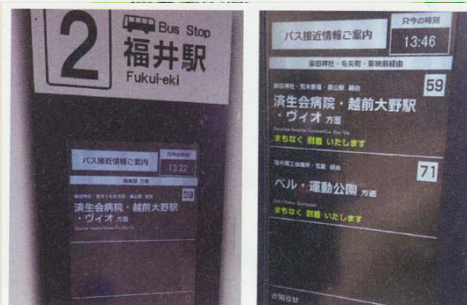
バスの位置検索システム

「京福バスナビ」



バスの接近情報が分かる
「バスロケーションシステム」

(福井駅ターミナルに設置)



福井駅を起点とした
100円区間

福井駅を起点とした
200円区間

7 福井鉄道 駅前線延伸 ～Before～



← J R 福井駅西口全景
(2009年頃)

駅前通りにあった →
福井鉄道の福井駅前電停



7 福井鉄道 駅前線延伸 ～A f t e r～



← JR福井駅西口全景
(2016年以降)

↓ 新しい福井駅



相互乗り入れのための基盤整備(定時性の確保)

① 電停の改良(低床ホームの設置と広幅ホーム)

- ・福井鉄道の路面電停について、ホーム幅が狭く(約0.8m)、乗り降りに時間がかかっていたため、幅を2mに広げてラッシュ時の乗降時間を短縮



改良前(左)、後(右)の仁愛女子校電停

② 走行空間の拡幅

- ・右折自動車との接触防止のため、軌道敷沿いの右折レーンの車道幅を狭め、その分路面電車の走行空間に余裕を持たせた
- ・500mの直線区間で区画線の引き直しを実施

③ 右折車両分離方式信号の導入

- ・自動車と電車が接触しないように、軌道信号の「進め」と自動車用信号の「右折」を分離
- ※自動車用の信号は「赤」「黄」、「直左」「右」の矢印表示のみ

④ 電車PTPSの導入

- ・電車の接近に合わせて「進め」の延長や赤の短縮を行うPTPS(公共車両優先システム)を設置し、電車の信号待ち時間を短縮
- ※バスと電車のPTPSの同一区間での運用全国初



電車専用信号と右折車両分離方式信号

相互乗り入れで利用者が増加

相互乗り入れ開始後、1年間の利用者

- ・一般利用者は、前年同時期に比べ約2.8倍
- ・土日限定の「福井鉄道・えちぜん鉄道共通1日フリーきっぷ」利用者は約1.6倍

期 間	一般利用者 片道きっぷ、往復きっぷ、 回数券、定期券	福井鉄道・えちぜん鉄道 共通1日フリーきっぷ購入者
平成27年度(乗入れ前) 27年4月～28月3月	約43,700人	約5,400人
平成28年度 28年4月～29年3月	約124,300人	約8,300人
平成29年度 29年4月～29年12月時点	約104,000人 (前年同期 約45,000人)	約4,000人 (前年同期 約7,000人)

(参考)全線の利用者数

期 間	えちぜん鉄道	福井鉄道
平成27年度(乗入れ前) 27年4月～28月3月	約346万人	約199万人
平成28年度 28年4月～29年3月	約356万人	約203万人

福井しあわせ元気国体 2018

第73回 国民体育大会

織りなそう 力と技と美しさ

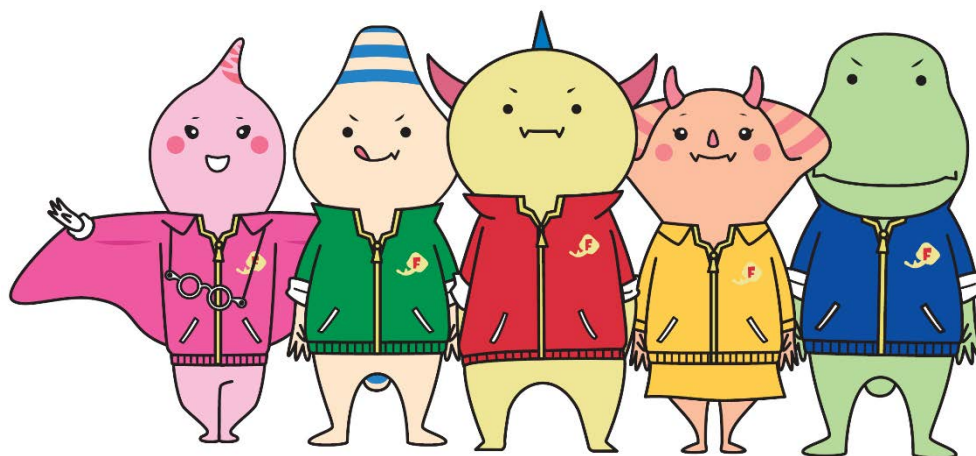
平成30年(2018年) 9月29日(土)～10月9日(火)

福井しあわせ元気大会 2018

第18回 全国障害者スポーツ大会

織りなそう 力と技と美しさ

平成30年(2018年) 10月13日(土)～10月15日(月)



さとりゅう

すぼりゅう

はぶりゅう

はなりゅう

たべりゅう

マスコットユニット
Dinoはぴねす
福井しあわせ元気国体 福井しあわせ元気大会

国体へ向けた整備

田原町広場全景



田原町ミュージアム



田原町ミュージアム活用例



○相互乗り入れのために改修した田原町駅
周辺に、交流広場「田原町ミュージアム」を整備
(平成30年3月完成)



○福井城山里口御門を復元(平成30年3月24日)



○えちぜん鉄道を高架化し、渋滞削減、東西の
交流拡大(平成30年夏完成)
※工事の間の仮線として、新幹線高架を利用↓



○市役所前電停をバリアフリー化、乗換え利便性を向上
○電停名称を「福井城址大名町」へ変更。(平成30年3月24日)
電停近くの福井城址で歴史スポットの整備が進んでいる
ことから、観光客が福井城址の近くだとイメージできる電
停名に変更し、利用を促す。



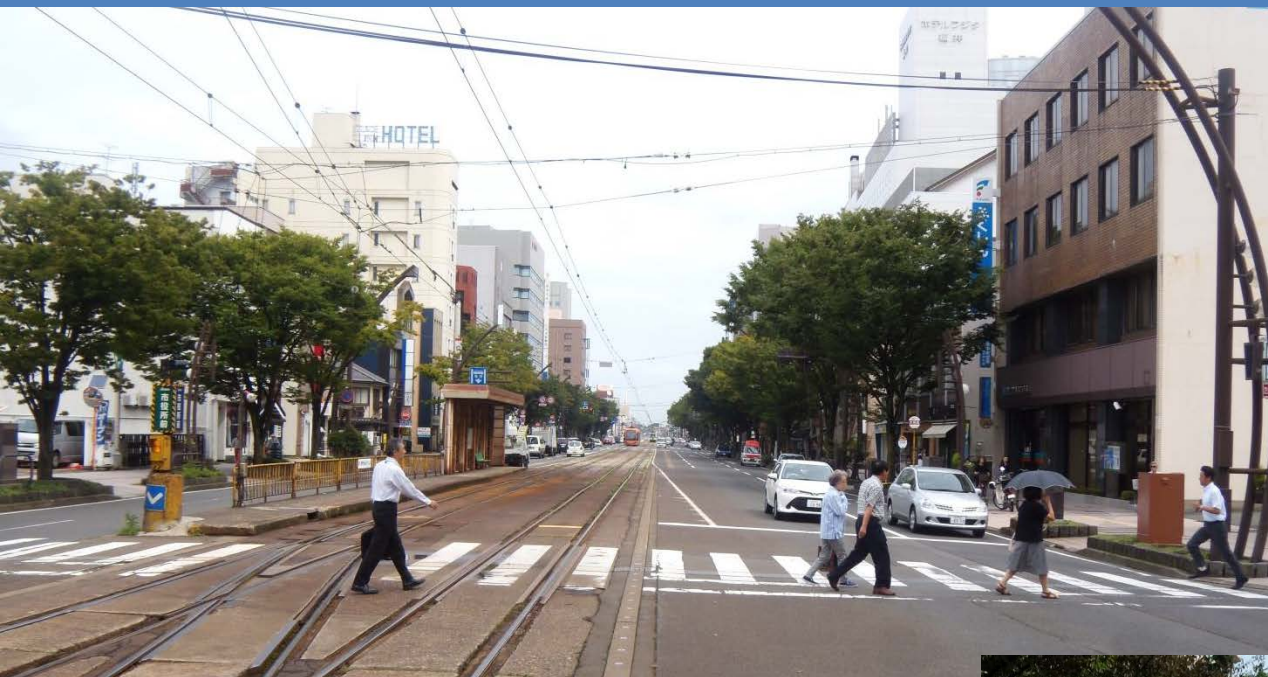
4 田原町駅と田原町ミューズ



4 田原町ミューズ



5 福井鉄道 市役所前電停 ～Before～



←田原町方面ホーム
(2016年頃)

↓ 越前武生方面ホーム



(↑ 越前武生方面ホームに行くための階段)

5 福井鉄道 市役所前電停 ～A f t e r～



↑ 新しくなった駅ホーム
(2017年12月)

FUKURAMと駅→



5 福井鉄道 市役所前電停駅名変更

市役所前

(Shiyakusyo-mae)



福井城址大名町

(Fukuijoshi-daimyomati)



2 えちぜん鉄道 福井駅 ～Before～



2014年以前の様子

2 えちぜん鉄道 福井駅 ～A f t e r～



2018年1月の様子

ICカードの導入

福井新聞
平成29年2月1日(水)

H30.9月の国体では
初めて福井に！！



カード乗車券

イコカ 県内来夏導入

JR西 北陸線駅に自動改札

2018年夏にJR北陸線の県内区間に導入されるJR西日本のICOCA(イコカ)



JR西日本金沢支社は31日、ICカード乗車券「ICOCA(イコカ)」を、福井県・金沢障害者スポーツ大会前の2018年夏に北陸線県内区間に導入する予定と発表した。牛ノ谷駅(あわら市)から新正田駅(敦賀市)までの19駅で運賃を支払うことがで

き、指定店舗では買い物にも使えるようになる。同日、JR西金沢支社の児島邦昌支社長が県庁を訪れ、西川知事に説明した。県は福井国体までの導入をJR西に要望していた。

ICOCA乗車券は、券売機などで事前に入金(チャージ)し、自動改札機の読み取り部分にかざすと運賃が引き落とされる仕組み。JR西によると、福井県内の導入整備費は約7億円の見込みという。JR西管内の2府16県で自動改札機が導入される最後の県となる。

首都圏の「Suica(スイカ)」など互換性のある他エリアのICOCA乗車券も福井県内で北陸線を利用する場合に自動改札機を使うため、県外客にとっても便利になる。

児島支社長は県庁で、西川知事に「福井国体には必ず間に合わせる」と述べ、詳しいサービスの内容や開始日は決まり次第報告するとした。

また「えちぜん鉄道や福井鉄道、路線バスなど、他の交通事業者とも同じICOCA乗車券のシステムで相互に利用できるよう、働き掛けを進めていきたい」と述べた。

西川知事は「できるだけ早く実現するようお力添えを」と求めた。(大谷貴洋)

平成35年春 北陸新幹線 敦賀開業

北陸新幹線の敦賀開業や、中部縦貫自動車道の全線開通の「効果」を極力高め、県内全域に浸透させるための「県民共有の行動計画」を策定

北陸新幹線敦賀開業の効果(例)

① 首都圏との直結

- ・福井県が首都圏と3時間で直結
福井～東京間が北陸新幹線で 約2時間50分(△34分)
- ・当面の4駅に小浜駅を含め、北陸新幹線沿線では**最多の5駅**が県内に設置
(福井駅と敦賀駅には速達型新幹線(かがやき)が停車する見込み)
- ・当面の終着駅「敦賀(福井)」の宣伝効果への期待

② 北陸三県が1時間圏内に

- ・福井、金沢、富山の3都市が北陸新幹線を軸に1時間圏内で接続

※主要都市間の移動時間

敦賀 - 福井	0:16 (現況 0:31)	福井 - 金沢	0:22
敦賀 - 金沢	0:37 (現況 1:14)	福井 - 長野	1:31
敦賀 - 富山	0:55 (現況 1:42)	福井 - 東京	2:53 (乗り換えなし)

基本戦略 「交通の革新」による地域交通ネットワークの強化

(1) 新幹線駅の拠点機能強化と地域公共交通の革新

①新幹線4駅における交通拠点機能の強化

- ・新幹線駅の駅前広場やアクセス道路を整備
- ・並行在来線、地域鉄道、バスを一体的に組み合わせ、経営とサービスを強化
- ・敦賀駅での新幹線とJR在来線特急、小浜線等との乗換え利便性の確保
- ・新幹線駅等を拠点に市町を超える広域バスを生活圏の広域化に合わせ運行
- ・コミュニティバスを休日の観光地循環バスとして有効活用
- ・敦賀港のクルーズ客船就航を拡大し、京阪神への周遊ルートを形成
- ・日本海側最古の歴史を有する敦賀港線の活用を検討 など

②新しい技術や手法の導入

- ・ICカード乗車券を全県域で利用できるよう順次導入
- ・クルマの自動走行を京福電鉄廃線跡を活用し実証、導入拡大
- ・観光客向けカーシェアリングをホテルから順次拡大

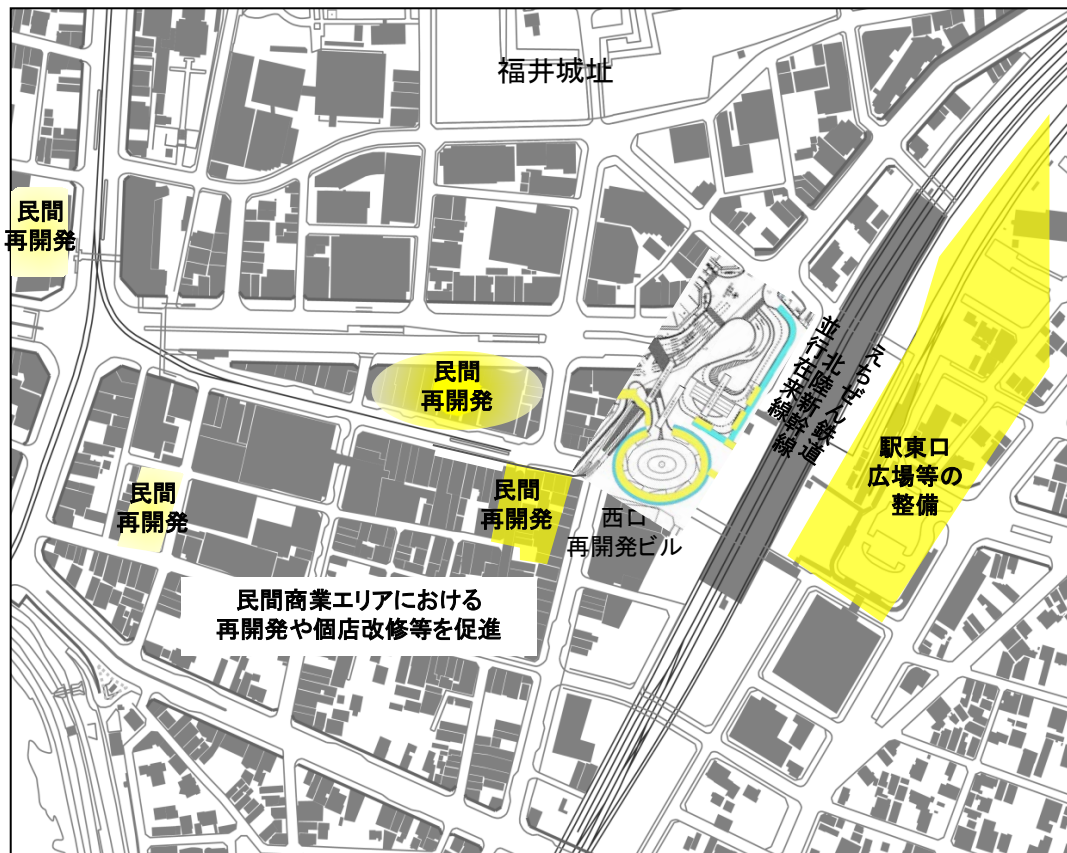
(2) 道路の多面的なネットワーク機能の強化

- ・高速道路ICのアクセス道路の整備促進
- ・重点道の駅を3か所(小浜市、大野市、勝山市)に整備
- ・敦賀市田結地区や美浜町山上地区の産業団地を完成
- ・生産拡大をめざす園芸や水産業、薬草等の研究拠点を整備
- ・鞠山南地区多目的国際ターミナルのふ頭用地の整備促進 など

1-1(1) 福井駅および駅周辺のまちづくり

これまでの成果	平成29年度以降の予定	開業までに実現を目指す施策
・駅西口広場、再開発ビルの整備(福井市、H27) ・自然史博物館分館(ドームシアター等)の整備(福井市、H27) ・えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗入れ(H27) ・福井鉄道福武線福井駅前線の延伸(H27) ・新幹線駅舎デザインのコンセプト提案(H28)	・駅東口広場等の整備(市、～H30) ・えちぜん鉄道の高架化(県、～H30) ・<u>市内循環鉄道の調査(県、H28～)</u> ・個店の改修等への支援(県・市、～H29) ・福井駅・城址周辺地区での再開発(民間)	・民間・行政による新幹線高架下の有効活用 ・新幹線駅舎構内への観光案内所の設置 ・公共施設の再配置等による市中心部への都市機能の再集約 ・<u>民間の再開発事業にあわせた歩行者と鉄道が共存できる空間の検討</u>

駅西口広場や西口再開発ビル整備に続き、えちぜん鉄道の高架化など、新幹線延伸に向けて福井駅周辺を整備します。また、老朽化ビルの更新やリノベーションへの民間投資を促進し、県都の賑わいづくりを推進します。



出所 福井県作成、福井市提供

※区域は概ねの位置を示したもの

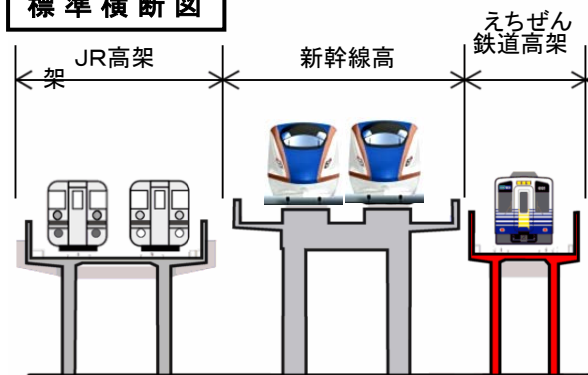
〇29年度実施事業【福井県】

- ・えちぜん鉄道高架工事(H24～H30)
(福井駅付近連続立体交差事業 825,600千円)
- ・福井市が行う駅東口広場等の整備支援
(福井駅周辺土地地区画整理支援事業 4,600千円)
- ・個店の改修等の支援
(おもてなし商業エリア創出事業 73,873千円の内数)

〇29年度実施事業【福井市】

- ・市街地再開発事業等の支援、駅東口広場等の整備
(市街地再開発事業等支援事業 273,300千円
福井駅周辺土地地区画整理事業 372,673千円)
- ・個店の改修等の支援
(おもてなし商業エリア創出事業等 18,450千円)

標準横断面図



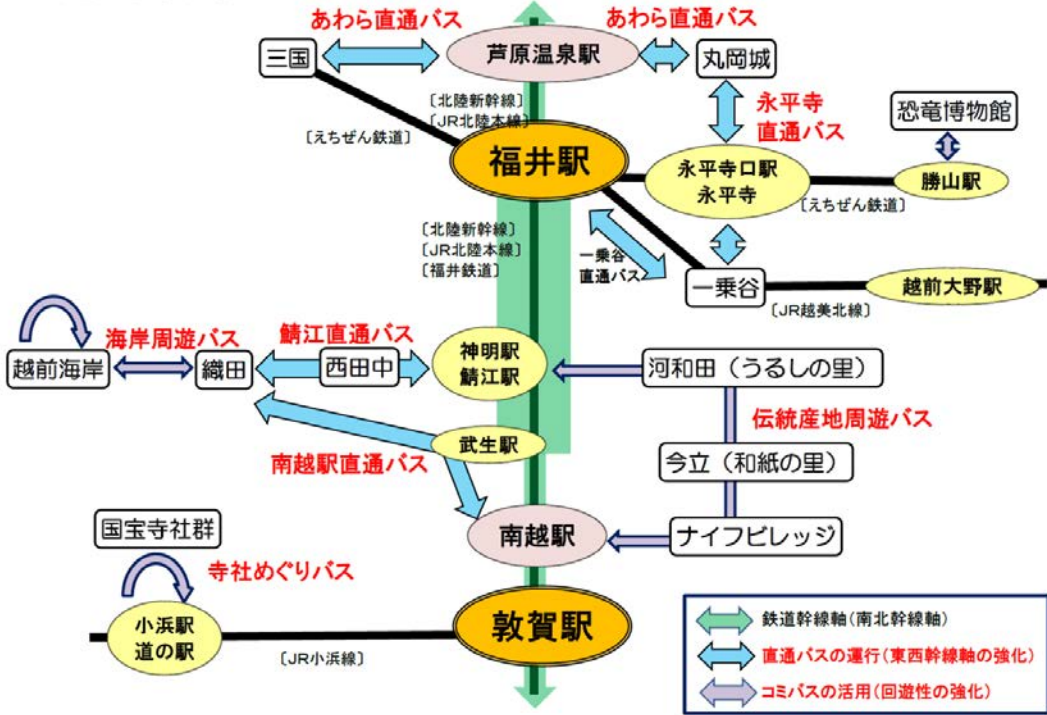
Ⅲ－（１）地域公共交通ネットワークの拡充

主体	県・市町・民間	場所	全域
事業費	ソフト事業	期間	継続実施

これまでの成果	平成29年度以降の予定	開業までに実現を目指す施策
・えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗入れ〔P3再掲〕 ・福井鉄道福武線福井駅前線の延伸〔P3再掲〕	・えちぜん鉄道の高架化〔P3再掲〕 ・市内循環鉄道の調査〔P3再掲〕 ・北陸本線へのICOCAの導入（民間、～H30）	・歩行者と鉄道が共存できる空間整備の検討 ・新幹線駅からの二次交通の確保

新幹線駅を中心として、JR・並行在来線、地域鉄道、バス等を一体的に組み合わせ、利便性の高い地域公共交通ネットワークを実現します。

二次交通拡充の体系(案)



今後の拡充方針

- (JR・並行在来線、地域鉄道)
 - ・並行在来線、地域鉄道、バスを一体的に組み合わせ、経営とサービスを強化
 - ・北陸本線の第3セクター化後の新駅設置
 - ・小浜線の観光利用の拡大
- (路線バス、コミュニティバス)
 - ・市町を超える広域バスの運行
 - ・コミュニティバスを休日の観光地循環バスとして活用
 - ・福井駅から主要観光地への特急バスを運行
 - ・福井市のまちなか観光エリアのバスを低料金化
- (その他)
 - ・ICカード乗車券の導入
 - ・クルマの自動走行の実証・導入拡大
 - ・観光客向けカーシェアリングの拡大
 - ・道路空間の再配分により、歩行者や自転車の快適な利用環境を確保

観光地での電気自動車カーシェア

H29.04.10本格スタート

- ・日産自動車の電気自動車12台が、県内10箇所の宿泊施設に無償貸与
- ・3年間の社会実験
- ・宿泊客への貸出しや、施設側の送迎等に使用



- ・福井国体開催時、北陸新幹線開業時の観光客の足として期待



10 宿泊施設 シェア実験開始

日産、JTB無償貸与

電気自動車（EV）を活用したカーシェアリングの実証実験が十日、県内で本格スタートを切った。EVの普及や観光地での需要を際うと、日産自動車とJTBが全国十七県で展開する「ゼロエミッション・ツーリズム」の一環。六年後の北陸新幹線延伸時における二次交通の充実、車社会の福井では大きな課題だけに、県内関係者が新しい「観光の足」の試験導入に寄せる期待は大きい。

（北原愛）

県内では、日産自動車製・通まちづくり課によると、の五人乗りまたは七人乗り、貸与台数は全国でも最多規模のEV十二台が、旅館やホテルで、宿泊の観光客に貸出するほか、業務用として利用する。貸し出しは各、期間中は三年間。県交も利用する。貸し出しは各、

十日はあわら市温泉一丁目のあわら温泉湯のまち広場で出発式があり、日産自動車の池田一彦・北陸エリ

電気自動車で県内観光

◇県内の導入施設◇

あわら市	清風荘、みのや泰平閣、まつや千千、グランディア芳泉、長谷川エースイン福井、ユアーズホテルフクイ
福井市	エースホテルフクイ
坂井市	荒磯亭
越前町	ふるさとの宿こぼせ
大野市	ホテルフレアール和泉

アマネーシャワーは「広い室内空間とEVならではの滑らかな加速性や静粛性を兼ね備えたモデル」と貸与車をPR。JTBコーポレートセールの石井誠・露が「第一事業部長は「自然環境に優しいツーリズムで地域を盛り上げるスタートの日だ」と語った。

十施設の半分があわら市に集中しており、あいさつに立ったまつや千千同市に伊藤敏郎常務は「自然に囲まれた風景、公共交通に不安を持つ観光客にとって有効性、利便性の高い取り組み」と期待。福井日産自動車清水信弘社長から目録を受け取った長谷川（同）の清水信弘社長も「車を貸してほしい」との要望はこれまでもあったと、カーシェアリングの実証実験を歓迎した。

交通機関への再生可能エネルギー活用事業

再生可能エネルギー等の活用

電力の供給先

期待される効果

再生可能エネルギー
(太陽光、風力 等)

回生エネルギー
(電車がブレーキをかける時に発生)

・自動走行車

・駅舎照明、空調等

・コミュニティバス(EV化)
電動レンタサイクル

○鉄道駅からの二次交通の充実

○鉄道事業者の経営コスト低減

○新たなEVバス等の運行による
交通結節機能強化

**H29年度えちぜん鉄道
永平寺口駅で整備中**

(1) 鉄道駅の交通結節機能強化

鉄道駅周辺に再生可能エネルギー設備を導入し、駅を中心とした交通結節機能を強化
(パイロット事業として、えちぜん鉄道永平寺口駅で実施)

(2) 他駅への導入可能性調査

将来の並行在来線や地域鉄道の駅施設等への導入を検討するため、想定される設置場所や発電量を調査

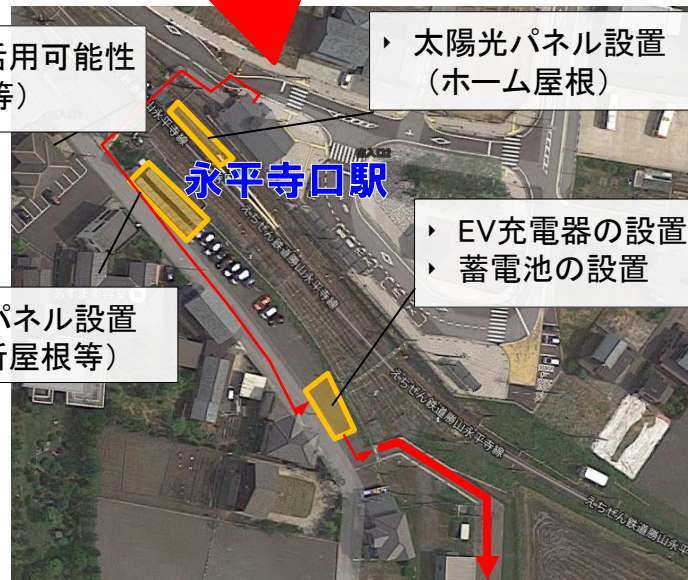
→ 平成30年度に、えちぜん鉄道福井駅、
福井鉄道北府駅で整備予定

▶ 回生電力の活用可能性
の検討(電車等)

▶ 太陽光パネル設置
(ホーム屋根)

▶ EV充電器の設置
▶ 蓄電池の設置

▶ 太陽光パネル設置
(変電所屋根等)



ラストマイル自動運転 実証実験の実施②

**H29年度から実施
H30年度に本格化**

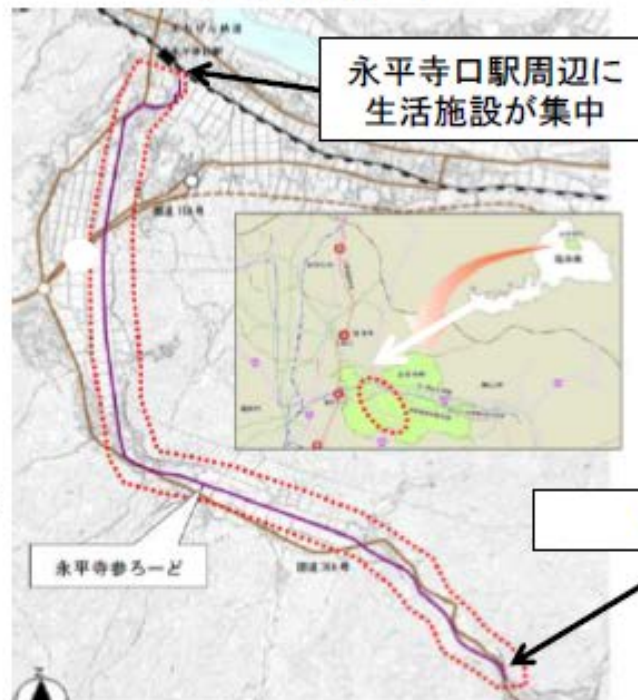
②【過疎地モデル】 福井県永平寺町（小型カート利用）
＜駅から住居地、観光施設の往復、住民と観光客の併用＞

1. 地域概況



- ・概況：永平寺を中心とした観光地・過疎地域
- ・人口：2,697人
- ・高齢化率：27.5 %
- ・観光客数：581,2620人
（うち外国人観光客数：10,754人）

2. 走行ルート



3. 走行地域イメージ



※ルートや走行地域イメージは
未確定

- 永平寺口駅と永平寺を結ぶルート。現在遊歩道として利用している廃線跡地を実証コースとして想定。
- 朝晩は通勤通学者の永平寺口駅への移動手段として、日中は観光客の永平寺への移動手段として利用されることを想定。

自動運転への興味加速

永平寺町 初の一般向け試乗会

自動運転車の実証実験を計画する永平寺町は7日、えちぜん鉄道永平寺口駅周辺で一般向けとしては初めてのなる自動運転車の試乗体験会を開いた。来場者は最

新の技術を使った小型電動車に目を輝かせていた。

同町などのイベント

「秋浪漫第2話」永平寺

のタペインレンガ館」の会場にある1周170メートルの町道ロータリーを使って開かれた。

車両は全長3メートルほ

どの小型電動カート。年内にも始まる実験に使う車両と同型で、この日がお披露目となった。

電動カートはコース上に敷かれた電磁誘導線に沿って時速5キロで走行。レーザーセンサーを使い前方の人を感知し停止できるほか、車載カメラの映像を使い遠隔操作もできる。

試乗会には子どもや家族連れで列ができ、カーブに沿って自動でクルクル回るハンドルに目を奪われていた。

体験した川村尚美さん(33)「福井市」は「人がいなくても横断歩道を感知する技術がすごい。実用化できるといい」と感心していた。他の参加者からも「乗り心地がいい」「自動で曲がったりするのが素晴らしい」との声が聞かれた。

(宮本幸直)



大勢の人でにぎわった自動運転車の試乗会
7日、永平寺町東古市

自動運転実験 進む集積

パナソニック、福井で開始

パナソニックは13日、福井県や同県永平寺町と連携して自動運転車両の走行実験を始めた。発表された。京福電気鉄道永平寺線の廃線跡を使った約6kmの遊歩道を活用し、3年程度で実用化の可能性を探る。北陸3県では産業技術総合研究所（産総研）や国土交通省などがそれぞれ自動走行の実験を推進しており、成果や課題についての知見の蓄積を通じて実用化の先進地になる可能性がある。



廃線跡の遊歩道を走行するパナソニックの実験車両（福井県永平寺町）

パナソニックの実験は大阪府門真市の本社構内などで走行実績がある車両を使う。周囲を感知するカメラを搭載し、人や車などを自動的に識別し、安全に徐行や停止、危険回避ができる。

同遊歩道を実験場所に選んだのは住宅地や山林などさまざまな沿道環境があり、公道と同様のデータが得られるからだ。えちぜん鉄道の永平寺口

石川 金沢大が公道走行
富山 中山間部で検証へ

北陸で自動運転の実験が広がる (カッコ内は実験の主体)



駅から曹洞宗大本山の永平寺近くまで延びており、実用化すれば観光客の利用も期待できる。2017年度は一部の区間を活用し、カメラ検



知や障害物の回避などの検証を計画する。18年度以降は全区間に実験を拡大する。同社は「強みの技術であるセンシングや人工知能（AI）などを生かす」考えだ。

同遊歩道では、産総研がヤマハ発動機などと共同で自動走行の実験を計画中だ。ゴルフ場のカー

トのような車両が電磁誘導線の上を走る方式で、パナソニックの車とは異なる。県は「さまざまな方法で取り組めば実用化に近づける」（交通まちづくり課）とみている。遊歩道の沿道は公共交通手段が確保しにくい地域の一つで、河合永充町長は「まずは地域の足として実用化したい。同時に観光の足にもなる」と期待する。県は、同様の課題を抱える県内各地での新たな交通手段としての実用化を模索する。

自動運転の実験を巡っては、石川、富山の両県でも動きがある。金沢大学は15年から石川県珠洲市で公道走行試験に取り組む。車にカメラやセンサーを搭載し、対向車や歩行者、信号など周囲の状況に対応して目的地まで自動でたどり着く。今秋の「奥能登国際

芸術祭2017」では一般客を含めてデモ走行した。20年の実用化を目指す。同県輪島市では輪島商工会議所が14年秋からゴルフ場の電動カートを改造した新交通システムを運行している。産総研が自動走行させる実験も年内に始まる予定だ。

富山県南砺市では、道の駅「たいら」を拠点とした自動運転サービスの実証実験が早ければ11月下旬にも行われる。舞台となるのは高齢化が進む中山間部。買い物や通院など住民の外出を促す移動手段や、道の駅で販売する農産物などの集荷・配送手段などとしての自

また、道の駅と世界遺産に選ばれた相倉合掌造り集落を結ぶ往復約16kmを実験区間として実際にモニターとして観光客を乗せた走行も行われる予定で、観光面での活用の可能性も模索する。

JR北陸本線(金沢・敦賀間)は並行在来線に

- 北陸新幹線敦賀開業(2023年春)に合わせ、北陸本線(金沢・敦賀間)はJRから経営分離され並行在来線となります。
- 北陸本線は県内外のヒト、モノの交流を支える地域に欠かせない重要な社会基盤です。
- 並行在来線のあり方について、県民の利便性の確保を第一に検討を進めていきます。

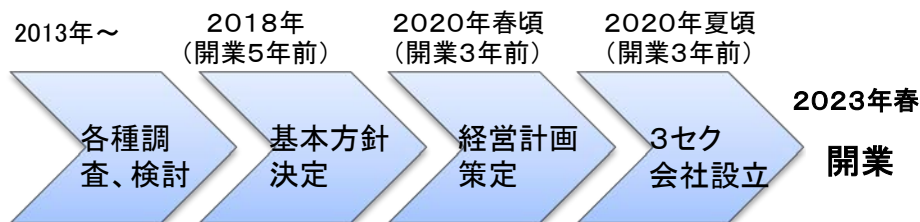
○県内の並行在来線区間

距離	石川県境・敦賀駅間 79.2km
駅数	18駅
輸送密度	約5,100人／日(1日1kmあたりの平均輸送量)

○県内の列車運行本数(現行ダイヤ)

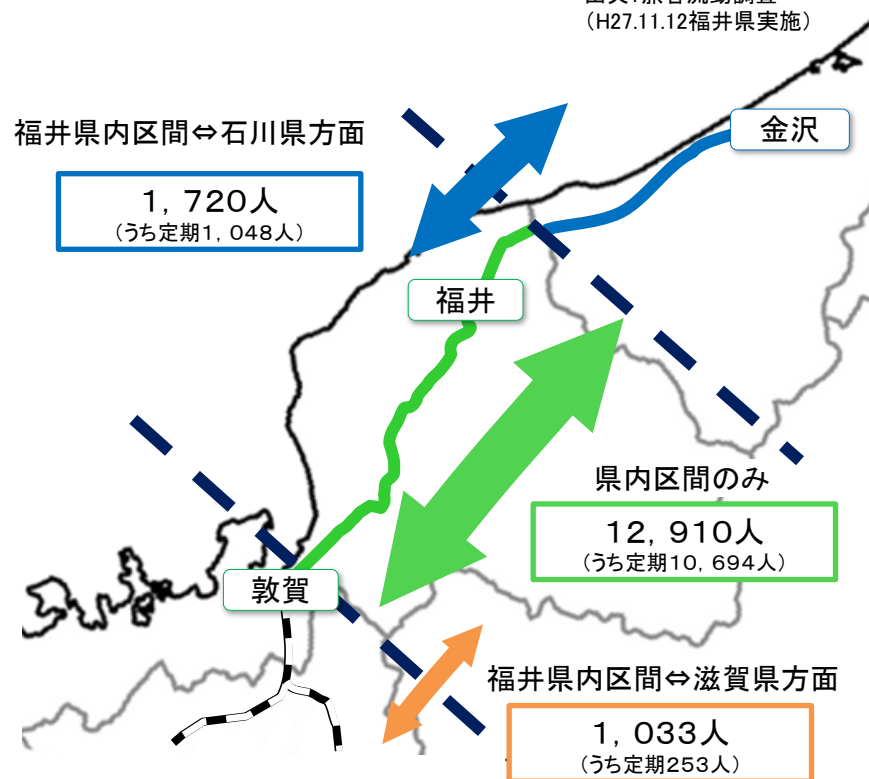
普通列車	102本／日
貨物列車	34本／日

○並行在来線開業までの検討スケジュール



○北陸本線(普通列車)の一日あたり利用者数

出典: 旅客流動調査
(H27.11.12福井県実施)



第2回ふくい交通フェスタ 開催！

平成28年3月27日の福井鉄道・えちぜん鉄道開業を記念して、一周年となる平成29年3月25日

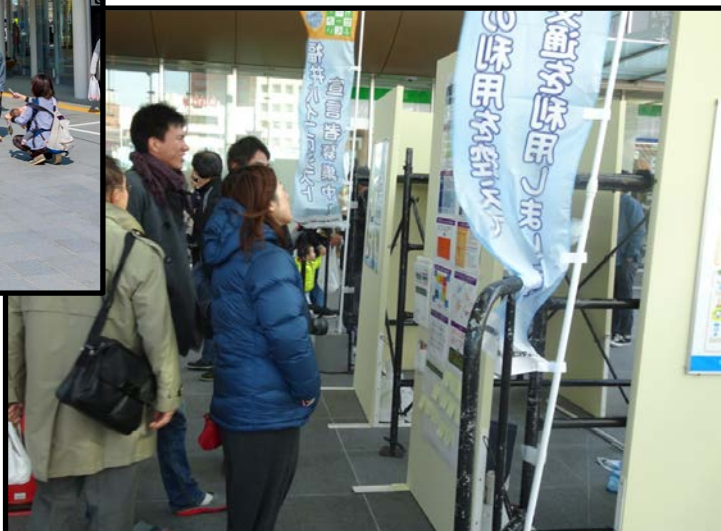
県内の交通事業者、市町、カー・セーブ日本連合などで鉄道・バス・自転車に親しみ、ともに

オール福井の地道な取り組み！

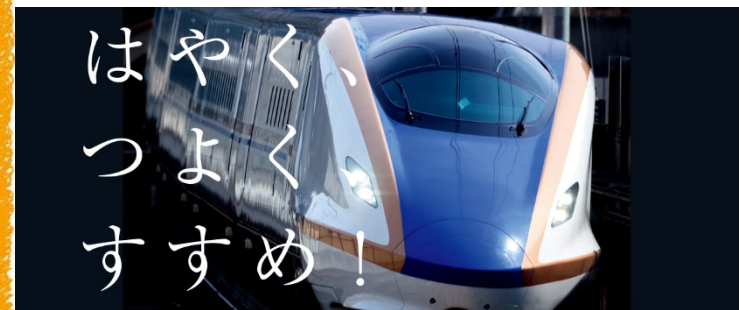
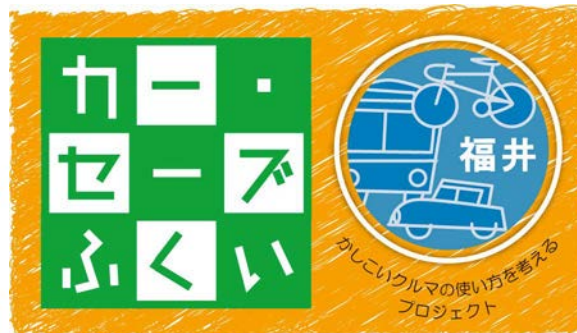
県民にとって利用しやすい公共交通は、県外から訪れる観光客にも同じことがいえる。今年の福井国体・全国障害者スポーツ大会や5年後に迫った北陸新幹線に向け、誰もが目的地に移動しやすい社会づくりに力を合わせて取り組んでいきたい

日時：平成30年3月24日（土） 9:30～15:00

場所：JR福井駅西口 再開発ビル「ハピリン」屋根付き広場「ハピテラス」



ご清聴 ありがとうございました ぜひ福井県へお越しください！



○お問合せ

福井県クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議

事務局：福井県総合政策部交通まちづくり課

TEL : 0776-20-0291